



一年の計は元旦にあり

校長 木村知広

二学期も大きな事故・トラブルなく無事終えようとしています。これは皆さんが日々の生活の中で、『**自律と自立、協働**』を大切にしながら、日々努力を重ねてきた成果だと実感しています。皆さん、本当によく頑張ってくれました。ありがとうございました。

感謝



さて、令和7年は残り数日で終わり、新しい年を迎えます。この新しい年を迎えるときに「一年の計は元旦にあり」という言葉を聞くことがあると思います。皆さんはこの言葉の意味や由来を知っていますか？そこで、先日の道德授業の全校振り返りで話題にしたA Iに次のように質問（プロンプト）をしました。その結果の一部を紹介します。

【プロンプト】 ※指示の仕方については今後お知らせします。

あなたは中学校の先生です。一年間の計画を年頭に立てることの大切さを中学生に教えたい。そのため、一年の計は元旦にありということばの由来を、中学生にも分かりやすいように教えてください。

1. この言葉の意味は？

簡単に言うと、「物事を成功させるためには、最初が肝心。だから、一年の計画は元旦（1月1日の朝）にしっかり立てるべきだ」という意味です。「とりあえず始めて、後で考えればいいや」ではなく、最初にゴールを決めることが大切だという教えですね。

2. 言葉の由来を知ろう

この言葉の由来には、いくつかの説がありますが、一番有名なのは中国（明の時代）の学者、馮應京（ひょうおうきょう）という人が書いた本の中にある言葉です。

彼は、人生において大切な「4つの計画」をこう言いました。

一日の計は晨（あした）にあり （一日の計画は、朝に立てなさい）

一年の計は春にあり （一年の計画は、年の初めに立てなさい）

一生の計は勤にあり （一生の計画は、真面目に働くことにある）

一家の計は身（み）にあり （家族の幸せは、自分の行いにある）

※昔の暦では「春」が年の始まりだったので、現代の日本では「元旦」と言い換えられて伝わっています。

3. なぜ「最初」に計画を立てるのがいいの？

中学生の皆さんに、先生がこの言葉を贈るのには理由があります。

【迷わずに進める】

計画がないのは、地図を持たずに知らない街を歩くようなものです。最初に「ここに行く!」と決めておけば、途中でサボりなくなったり、迷ったりしたときも、正しい道に戻ってこれます。

【「やる気」が一番高いときに決める】

元旦や新学期は、誰でも「よし、やるぞ!」という前向きな気持ちになりますよね。そのエネルギーを使って計画を立てると、自分でも驚くような高い目標に挑戦する勇気が湧いてくるんです。

【振り返りができる】

計画を立てておくと、あとで「自分はどれくらい成長したかな?」とチェックできます。これが自信につながります。

このように回答が得られ、A Iのすごさを実感しました。また、いくつかの説があるとありますが、日本発の説として、戦国時代の智将 毛利元就（もうり もとなり）が息子たちに「一年の計は元旦にあり、一月の計は朔（ついたち）にあり、一日の計は鶏鳴（けいめい＝夜明け）にあり」と説いた言葉が由来であるとも言われています。常に先を見据えて準備を怠らなかった元就らしい、非常に現実的で説得力のある教えとして広まったそうです。このように、「一年の計は元旦にあり」という言葉は単に「計画を立てよう」という意味だけではなく、「物事を成し遂げるには、スタート時点での決意と準備がすべてを決める」という戒めを含んでおり、「あとでやればいい」と先延ばしにするのではなく、真っ新な気持ちになれる元旦に志を立てることで、一年を実りあるものにしようという先人の知恵だと感じます。

では、具体的にどのように計画を立てればよいかというと、これまでの自分自身の行動と心情を広い視野から客観的に振り返る**内省**を行い、今後さらに成長するためのヒントを探すことから始めます。具体的には、①**できたこと、できなかったことを含めて自分の言動を客観的に振り返る**。②**振り返りをもとに、今後も継続する点と改善する点を具体的に見つけ出す**。③**その継続する点と改善する点をいつ行うかなど、具体的な計画をたてて実行する**。というように考えてみてください。

冬季休業は一年の振り返りをもとに新年の決意を新たに立てるチャンスですから、ぜひ、具体的な決意・計画と準備を行い、新年にあたりよいスタートをきってもらいたいと思います。

それでは、皆さん良いお年をお迎えください。

道徳授業地区公開講座

12月20日（土）の道徳授業地区公開講座では、「自分の良心に耳をかたむけて」をテーマに、全学級が教材「[闇の中の炎](#)」（[クリックで教材を確認できます](#)）で道徳科授業を実施しました。その後、各学年代表1名と授業者代表の教員1名が舞台に上がり、道徳科授業の振り返りとして「心の葛藤を乗り越える」ということについて考えを深めるとともに、AIの活用をどこまで許せるかについての考えも深めました。この2時間の道徳科授業は、生徒教員全員が本当に一生懸命考え・議論し、とても学び多きものでした。その皆さんの学びの一部を紹介します。

【生徒の振り返り】

（9年生）

- ◆今日の授業の振り返りを通して、「他の人にどう言われたか」や「それについてルールがあるか」に関係なく、まずは自分の良心に聞いて判断すべきだと改めて感じた。その行為が胸を張って他の人に言えるものかどうか、それを考えることが大切だと思う。そのためにも、日頃から身近なルールを守ることを徹底し、善悪の判断ができるようにすることで良心を育てていく必要があると思った。
- ◆自分の行動は自分で判断し、その行動に対して責任をもつことが大切だと思いました。自分や自分と関わる誰かが嫌な気持ちにならないよう、正しい判断をするために想像力を育てていきたいです。
- ◆今日の授業と全体の振り返りを通して思ったことは、自分の中でラインを作ってそのラインを超えないように行動したら、自分や他の人を傷つけずに、楽しく生活ができると思ったので、今日学んだことを日常生活に活かせるように頑張りたいと思います。
- ◆今日の授業と全体の振り返りを通して、私は自分の心に正直になり、自分の気持ちをごまかさずに尊重することが大切だと気づけました。私はよく「本当にこれでいいのかな？」と思っても自分の気持ちをごまかして、「まあいっか」と思うてしまうことがあります。なので、今度からは少しでも納得しない気持ちがあったら、その気持ちを尊重して、どうしたら納得するのかを考えていきたいです。
- ◆私は今回の授業で、改めて自分が正しいと思うことをしていきたいという強い意志が生まれました。私は理想主義でよく言い訳をしてしまう悪いクセがあり、今回のお話は自分と重なり、とても深い気持ちになりました。そのため、改めてまっとうに生きようと思うことができました。ですが間違いはしっかり認め、これらの努力を続けられるように、これからも頑張っていきたいと考えています。
- ◆パクリかオマージュかの問題はアウトかセーフかの見極めが難しいので、だからこそ自分が良いか悪いかを考えることが大切だと思った。著作権に引かかる問題になることもあるので、しっかり知識として学び、判断できるようにしたい。理由があって真似するときは、それを作った方に敬意をもって書くことが大切だと思った。
- ◆今日の授業では自分の良心に従って、何が正しくて何がダメなのかを自分の中でよく考えていくことが大切だと感じました。また、その良心に従い、行動することで、自信をもって生きることができる幸福につながるのかなと思いました。
- ◆「闇の中の炎」を通じて、自分自身を裏切らないように選択をし、生きていくことが大切だと分かりました。自分もAIを日頃からよく使っているの、より考えて慎重に活用していくようにしたいと思います。AIは社会を映す鏡＝自分自身を映す鏡だとよく理解していきます。
- ◆自分の作品や判断には責任をもつようにしたいと思った。AIがつくったものだからと言い訳するのではなく、それを選択した自分自身が責任をもつことが大切だと考えた。何でもAIや他の情報、作品に頼るのではなく、自分が何を目的にしているのかや相談の例であれば相手がどんな想いでそう言ったのかをよく考えるようにしたい。
- ◆今日の闇の中の炎は自分の心の良心を大切にするとともに責任をもちながら判断することが大事だということを学び、AIの使い方にも気をつけなければならないということに気づいた。自分の考えが大切なときはAIに頼らず、困ったときにAIが必要だと思ったときはAIを参考程度に使っていこうと思った。これからはルールを守りながら正しい道を進めるようにしていきたい。



AI活用どこまで許せる？

- ①課題等を提出する際に、AIに相談し、提案された文章や画像をそのまま提出すること。
 - ②チームのメンバーに感謝の手紙を書くとき、メンバーと思い出をAIに相談し、文章を作成してもらうこと。
 - ③友人の困りごとをAIに相談し、提案された結果を友人に伝えること。
- ※全校振り返りで意見交換を行いました。

(8年生)

◆今回の授業で他人の考えた意見を自分のものようにするのは、相手も悲しいし、自分も罪悪感が残ってしまうので、なるべくやめた方が良いと思います。AIが使われる中で、私もAIを利用することがあるけれど、AIを利用して得た意見は本当に合っているか分からないし、個人情報も奪われてしまうかもしれない可能性を考えると、自分の頭で考えるのが一番良いということに気が付きました。

◆私が考えたことは「自分にしかない力を他のもので偽らず、真正面から向き合う」ことが大切だということです。ときには他の人の力をかりてやることも必要ですが、最終的には自分で考え、自分でまとめ、自分でやることが大切になってくるのではないと思いました。

◆闇の中の炎を読んで、最初は全てまねしているわけではないから、そんなこと気にしなくていいのになって思ったけど、クラスの中で話し合っ、他の学年の話を聞いて自分が後悔するようなこと、自分の中の悪いことの基準とかを大切にすることを学びました。なので、これからは他の人の迷惑がかからない程度に正直に生きようと思いました。

◆自分を裏切らないというのは難しいと思いました。学校という集団の中で周りに流されず、行動したり、自分とは違う意見が沢山あっても最後まで突き通すことは私にはできません。ですが、自分の考えは否定せずに大切にしたいと思いました。

(7年生)

◆今回の道徳の授業で自分がダメと思うことは、自分を守る、また自分を大切にするためにもしないようにしたいと感じました。私はダメだと分かっているけど結局やってしまった経験があったので、やっていいことなのか、やってはダメなことなのかよく考えるようにしたいです。友達や班の人の意見をきいたりして考えを深められたので、これから忘れず生かせるようにしたいです。

◆今日の道徳の授業を通して、自分を守るためのルールや法を守るとはとても大切なことだし、自分を裏切らないことで自尊心を育むことができると分かった。また、全体の振り返りをして、自分が意図していなくても他人の著作権や肖像権を侵害してしまう可能性があることを学んだため、それを調べるためにAIを使うということはいいいが、AIの使い方には気を付けたいと考えた。

◆今日の授業と全体の振り返りを通して気づいたことは、バレなきゃいいという考えはダメだと思った。身近なところでもまねみたいなものとか絵などたくさんあるんだと気づいた。AIは何でも答えてくれるし、いいなと思っていたけど、AIは社会の鏡だからたよりすぎてもダメだと思った。

◆みんながいいと言っているからいい、誰も見ていないからいいではなく、自分がダメだと思ったらダメと自分の良心に従い、常に誰かが見ているんだと思いながら生活していこうと思った。



AIは人間社会の鏡

【参観した保護者の方の感想】

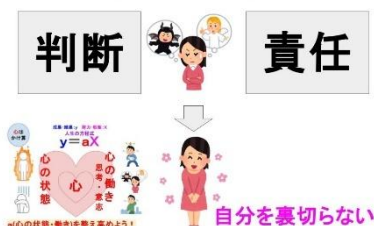
◇嘘の上の偽りの評価は自身を不幸にするという観点が重要である。一方で、その根底的要因である自分の人生を生きず他者からの評価など「他者に生きてしまうこと」のネガティブな影響にも関する問いであり良かったです。また、SNSだけでなくAIに関する倫理が中学校ですすでに取り上げられている点に驚きました。

◇中学になり行動範囲も広がってこういった「少しだけならいい」ということも経験があるかと思いました。これから大人になるにつれ様々な場面で経験する事を、この機会に考えるのはとても良いと思いました。これからのAI時代に私たち大人も考えさせられました。「自分自身を裏切らない」を大切に子どもも私自身も行動していきたいです。

◇全校での振り返りの時間があるのは良いと思いました。全員の意見を聞くことができないですが、代表者数名の意見を聞けることは良いと思います。また、代表者の中に先生の意見があることがとても良いと思います。

このように、2時間の道徳科の学びは本当に素晴らしいものでしたので、改めて、一人一人が考えたことを大切に、今後の生活にぜひ活かして欲しいと願っています。そして、素晴らしい学びの場を創りあげた皆さんの頑張りに感謝いたします。本当にありがとうございました。

どう生きるか？



生徒の活躍

○第54回板橋区中学校駅伝競走

男子の部 第2位 女子の部 優勝・第6位
男子個人の部 1区第1位 2区第3位
3区第2位 5区第2位
女子個人の部 1区第1位 2区第2位
4区第3位 5区第1位

○中学生の「税についての作文」

東京納税貯蓄組合総連合会 会長賞
板橋納税貯蓄組案連合会 入選

○第13回税をテーマとした川柳コンクール

入選

○令和7年度板橋区読書感想文コンクール

佳作

学校行事等のお知らせ

本校ホームページの赤二中日記では、学校行事等の様子を公開しています。右のQRコードもしくは下記のURLからご確認ください。また、玄関にも生徒の活躍等をサイネージとして公開しています。ご来校の際にはぜひご覧ください。

<https://www.ita.ed.jp/swas/index.php?id=1320142&frame=weblog>



赤二中日記

☆お知らせ☆

地域の方に長年愛され、多くの新入生を出迎え、卒業生を送りだしてきた正門横の桜の木を令和7年11月28、29日の二日間で伐採いたしました。伐採予定を事前に掲示物でお知らせしていたことで、多くの方が立ち止まって掲示物をお読みになるとともに、「切ってしまうのは残念ですね」と惜しむ声も寄せられました。改めて桜の木に感謝の気持ちを抱かずにはられません。今後、新しい桜の木を植栽する予定で、新しい歴史の一步を踏み出します。



【お知らせ(再掲)】 ※すぐーにて12月19日にお知らせ済みです

板橋区では、一人一台端末の深夜帯利用による生活リズムの乱れや、学習に関係のないサイトへのアクセス等の目的外利用が課題となっており、このたび区全体の方針として、家庭内での利用制限を導入することとなりました。

これを受け、本校におきましても生徒の健康を守り適切な学習習慣の定着を図るため、以下のとおり本校としての制限時間を決定いたしました。

ご家庭におかれましても、本趣旨をご理解いただき、端末の適切な利用について改めてお子様と話し合っているいただきますようお願い申し上げます。

運用開始日 令和8年1月8日(木)より 対 象 全学年・全生徒の学習用端末

制限時間・内容 23:00 ~ 翌朝 6:00 ・すべての機能が利用できなくなります。

※上記時間帯は、インターネット接続、アプリの利用、カメラ機能など、端末の操作全般がロックされます(スリープ状態等から復帰しても操作できません)。

【家庭へのお願い】今回設定する制限は、深夜帯の利用や目的外利用を防ぐための最低限のルールです。学習用端末としての正しい使い方や、放課後から23時までの利用ルールにつきましては、引き続き各ご家庭でお子様と話し合い、「我が家のルール」を決めて見守っていただきますようお願いいたします。